

遠方の傷病者を救う世界唯一のシステム!! 巡視船みずほでの洋上救急訓練に密着!!

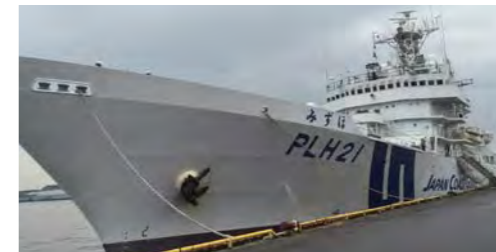


取材協力: 第四管区海上保安本部 名古屋市港区入船2-3-12(名古屋港湾合同庁舎別館)
TEL:052-661-1611 URL: <http://www.kaiho.mlit.go.jp/04kanku/>

遙か沖合を航行中に海の上で病気や怪我をしたらどうするか。考えるだけでも冷や汗が出るような状況だが、幸い日本には世界屈指の優れた洋上救急というシステムがある。今回は巡視船みずほにおいて、洋上救急の訓練が開催されるという話をお聞きし、早速取材する事にした。まず、洋上救急の概要を説明すると、海に浮かぶ船舶上で傷病者が発生し、医師による緊急の加療が必要となった際に、医師等を海上保安庁の巡視船やヘリコプター等で急送するとともに、患者を巡視船やヘ

リコプターに引き取り、医師の加療を加えつつ、陸上の病院に搬送するというシステムである。このシステムは昭和60年の設立以来、出動は826件、救助人員は856名を数えており、いかにこのシステムが多くの命を救ってきたかが分かる。こうした活動では日頃からの訓練が本番での救命活動をよりスムーズにするという事もあり、訓練には様々な医療機関が参加した。まずは、停止中のヘリの中で実際に救命活動の訓練を始める。ここでは有効スペースとして使える空間の把握や、プ

ロペラの音対策等に関する説明が行われた。また、操縦士や潜水士とのコミュニケーションも取れており、実際の現場をより具体的に想定する事もできていた。訓練の後は意見交換会の時間も設けられており、それぞれが成果や課題を発表していた。洋上救急の精度を上げるべく、こうした機会を設けて訓練を行うという事は非常に有意義であり、是非とも多くの方に知って頂きたいシステムであると感じた。



巡視船 みずほ

全長 130m、最大幅 15.5m
深さ 8.8m 最大搭載人員 130名
主機 ディーゼル2基 軸数 2軸
出力 18,200馬力 速力 23ノット
航続距離 8,500海里
ヘリコプター ベル412型2機
総トン数 5,259トン
常備排水量 5,317トン



巡視船みずほのヘリポートに降りるヘリコプター。遠方での洋上救急の場合、海上の巡視船を経由する事で燃料補給もでき、より広範囲での活動が可能となる。



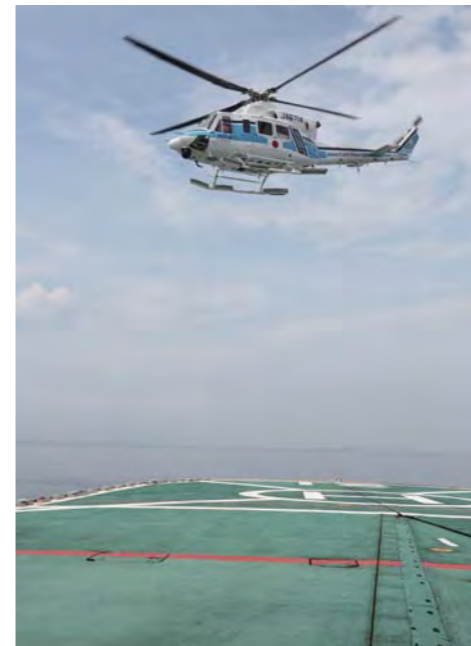
海上保安庁職員が医療関係者に巡視船みずほの設備について案内していた。また、救命胴衣やヘリに乗る際の安全備品についても事前に説明があった。



洋上救急センター東海地方支部長を務める東海マリンサービスの吉川社長(写真左端)から挨拶が行われた。訓練当日は多くの医療関係者が集まった。



ヘリコプターに傷病者を搬送した想定で、ヘリコプター内で救命活動訓練を行う。ここでは実際の機内の音やスペースを想定し、本格的な訓練となっていた。



訓練のため、みずほから飛び立つヘリコプター。



実際に飛行中の機内でも救命活動訓練は行われた。昼食時に振舞われた巡視船カレーは大好評だった。



訓練後には意見交換会が設けられ、関係者が様々な意見を出し合い、大変有意義な時間となっていた。